

姉妹都市

韓国利川市議会 パク・ミョンソ議長来訪



甲賀市議会議員 橋本 恒典

利川市議会議員 パク・ミョンソ



韓国利川市の概要

利川市は韓国京畿道の東南部に位置し、人口は23万人で都市と農村が調和した田園都市。世界最高の美質を誇る利川米の産地であるとともに、千年息づいてきた伝統陶磁器の中心地でユネスコ創造都市として様々なプログラムが行われている。
人口：233,510人（2023年8月1日現在）
面積：461.3km

甲賀市と利川市の姉妹都市交流の経過

陶磁器が交流の媒介となり、利川文化院と信楽町観光協会の交流から始まった。

1999年 信楽町と姉妹都市提携締結

2005年 甲賀市と利川市が姉妹都市提携締結

2005年 姉妹都市提携記念甲賀市市民訪問団派遣

2006年 利川市市民訪問団・青年陶芸家受け入れ

その後、隔年で訪問団派遣・受け入れを実施

「亀遊び」は、キビワラでつくられた長寿を象徴する亀を中心に、楽器を持ったサムルノリ隊が1年の豊作と村の安寧を祈りながら家を一軒ずつ回るもので、現在は利川市のみで行われており、伝統民族遊びが京畿道無形文化財第50号に指定されています。

今回は、甲賀市市制施行20周年への祝意を込めて、亀遊び保存会によるサムルノリの演奏や演舞を披露していただきました。

利川亀遊び保存会によるサムルノリの演奏と演舞



안녕하십니까, 이천시의회 의장 박명서입니다. 우선 따뜻하게 환대해주신 고카시의 회 의장님을 비롯한 의원님, 직원분들께 깊은 감사의 인사를 전합니다.

こんにちは、利川市議会議長のパク・ミョンソです。まず、温かく迎えてくださった甲賀市議会議長をはじめとする議員と甲賀市の職員の皆様に深く感謝申し上げます。



ようこそ甲賀市へ。9月29日に行われた甲賀市市制施行20周年式典に合わせ、姉妹都市提携をしている韓国利川市から市民交流団と文化交流訪問団とともに、利川市議会から朴明緒議長と金在憲副議長が来訪されました。利川市議会として甲賀市議会を訪問されるのは初めてです。甲賀市議会議員との記念撮影や議長・

副議長との意見交換をとおして交流を深めました。利川市議会は「疎通する共感議会。行動する開かれた議会」のスローガンのもと、23万人の市民を代弁する代議機関として活動されています。甲賀市議会も開かれた議会を目指していますが、参考になる取組が多くありました。

「開かれた議会」を目指して

甲賀市と利川市とは、2005年から相互交流を深めてきました。韓国の陶磁器文化の中心である利川市と、日本六古窯のひとつである信楽焼など、共通の陶磁器文化とともに、農業、教育など、民間の芸術分野でも交流を深めてきました。私も甲賀市議会の議長として、今年4月に開催された「陶磁器まつり」に、利川市を訪れ、利川市の自然と文化を肌で感じる事ができました。今回の訪問を契機にさらなる交流が深まることを期待しています。

さて、利川市議会では「開かれた議会」をテーマに取り組んでおられます。甲賀市議会でも広報広聴に力を入れ、より市民に開かれた議会に向けて取り組んでいます。利川市

議会では、各界各層の徳望ある市民を「一日名誉議員」に委嘱し、定例会議に参観できるようにしているとのこと。委嘱された「名誉議員」は、地方議会の機能と役割を市民に知らせる「広報大使」の役割を担うなど、議会と市民との接点を広げる役割を担っています。

また利川市議会では、「苦情処理中心」の消極的なコミュニケーション方式だけでなく、議会と各団体との懇談会を積極的に取り組んでいるとのこと。大変興味深く聞かせていただきました。その結果、昨年4月から「市民とのコミュニケーションの日」を運営されているそうです。

これら懇談会を通じて、市政運営の問題点や改善点を把握すること

で、「健康な組織文化と成熟した市民意識の定着」にもつながっているとのことでした。市に対して必要な改善点を明確にし、市執行部に伝えるとともに、懇談した団体にもその旨を通知されているようです。

もうひとつの注目点は、議会として、オンラインで市民と活発にコミュニケーションをとるために、インスタグラム、フェイスブック、YouTubeなど多様なSNSを通じて、リアルタイムで双方向のコミュニケーションをとっている点です。

朴議長が「市民の小さな声も聴き流さず、市民との約束は必ず守る、地域のボランティアになれるよう」利川市議会議員全てが心を一つにして、最善を尽くされている姿勢は学ばべき点だと思いました。

(甲賀市議会議長・橋本恒典)